

3中学校合同による提言発表会「市長と語る会」 発言に対する対応方針

〔開催概要〕

日時: 令和5年2月20日(月)17:15～18:00

場所: 東部保健センター 講堂

令和5年5月

鹿児島市 市民協働課

「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和5年2月20日（月）17：15～18：00

場所：東部保健センター講堂

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検討結果、今後の方針等
1	玉龍中学校	<p>タイトル：鹿児島をPRできる観光市電を作ろう！</p> <p>鹿児島島のイメージである桜島、自然、食べ物を活用して何か新しい物が作れるのではないかと考えた。</p> <p>外国人観光客向けのアンケート及び市内にきた方向への満足度アンケート結果から、鹿児島市では公共交通の利便性及び満足度の二つが低いという課題があることが分かった。</p> <p>一つ目の利便性について、ドルフィンポート跡や大型商業施設など主な観光客来訪地に市電を繋げる必要があり、二つ目の満足度については、かご電の廃止や市電の外装、内装が鹿児島の特徴を生かしていないなどの問題があると考えた。</p> <p>そこでこれらの問題解決のために「ポテトレイン&海辺改革」を提案する。</p> <p>海辺改革について、ドルフィンポート跡に設置したい施設として観光コンベンション施設、複合型スポーツ施設、多機能型屋内施設、旧ドルフィンポートに代わる飲食店の入ったアミューズメント施設などを提案する。</p> <p>また、コロナ後の観光客を増やすために、観光電車による後押しが必要であると考え、桜島を親ながらサツマイモや鹿児島のお茶を味わえ、屋根の構造を工夫して鹿児島島の風などの気候も体感できる電車「ポテトレイン」を提案する。</p> <p>ポテトレインの中では、四季折々のスイーツを提供することで、一年中観光客を見込める。</p> <p>これらの案を実行することで、観光客や市民が観光地などに気軽にアクセスできるようになり、課題である利便性と満足性を上げることができる。そして、市民が利用し、観光客も楽しめる観光市電を作ること、SNSを使って鹿児島を広める人が増え観光客が増加し、市の収入も増えると考え。</p>	<p>観光客にとっての魅力向上は重要なことで、着目していただき有難い。このことに着目したきっかけを教えてください。</p> <p>（第3次産業の観光による収益が多い沖縄を参考にした部分がある。東京から見ると北の寒い場所、南の暖かい場所ではある意味新しい体験ができる。鹿児島は本土で沖縄より移動しやすいことから、観光客を増やす取り組みが必要であると考えた。）</p> <p>人はなぜ旅をするのかを考え、自分の地元でないものを求めて行くということポイントに気づいており素晴らしい。鹿児島でも観光客にとって地元でないものをアピールすることから、路面電車に着目したのだと思う。</p> <p>路面電車とドルフィンポート関係の2つの提案をいただいた。</p> <p>路面電車について、春夏秋冬の食での提案でありおもしろい。様々な食べ物について、色々な関係組合や協会にこの案をアピールできればと考える。</p> <p>ドルフィンポート周辺の活用については、みなさんのような若い学生さんの未来を描くものである。この一帯は県の土地であり、何に活用するかは県で検討するが、もちろん鹿児島市にとっても大事な場所であり、このエリアに直行直帰するのではなく、天文館、上町、中央駅周辺を周って街の魅力を体感してもらえるような施設を誘致若しくは造っていきたいと考える。本港区エリアの利活用のアイデアを4月半ばまで募集しており、ぜひみなさんの夢を応募して欲しい。</p> <p>みなさんには若いうちにぜひ旅に出て欲しい。観光とは自分の地元でないものを体験しに行くということに気づいたので、ぜひ旅行をして、その人を鹿児島に呼ぶために何が必要か考えて欲しい。</p> <p>一つお伝えしたい。海を活かした街づくりに取り組むシドニーに昔行ったが、オペラハウスが海の真横にありカフェやバーもあった。そこで、世界から見るとドルフィンポートは海から100メートルの内陸にあり、海からとても遠いということに気づいた。</p> <p>また、工事中のバリエードに「この港を世界的な港にするために工事を行っています。」を書いてあった。そこから、観光客も大切であるが、まず市民が楽しめることが大事だということを学んだ。若い時にぜひ旅に、特に海外に行って欲しい。</p>	<p>観光交流局</p> <p>建設局</p> <p>交通局</p>	<p>市長回答のとおり</p> <p>本市においては、「稼ぐ観光の実現」のために、観光客のニーズを的確に捉えた観光商品づくりや、個性豊かな観光資源の磨き上げを図るなど、「鹿児島ならではの」のオンリーワンの魅力創出に取り組んでおり、路面電車「さつまポテトレイン」については、今後の取組等を検討するなかで、参考とさせていただきたい。</p> <p>なお、路面電車とサツマイモを活用した企画としては、令和2年度に「マグマやきいも電車」を開催しており、令和5年2月には2年ぶりのコラボ企画として、「マグマやきいも電車」に加え「マグマスイーツ電車」「マグマしょうちゅう電車」の運行も実施している。</p> <p>「かごでん」については、令和3年12月末をもって観光レトロ電車としての活用を廃止し、以降は、観光客のみならず幅広く市民に親しまれるよう、通常運行や貸切運行に活用することとしている。</p> <p>様々な用途で貸切電車が利用されるよう、今後とも各面からPRに努めていきたい。</p> <p>また、県は本港区エリアの利活用の全体像の検討を行うため、「鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会」を開催しており、令和5年度末を目途に、全体像の策定を目指している。</p>

「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和5年2月20日（月）17：15～18：00

場所：東部保健センター講堂

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検討結果、今後の方針等
2	長田中学校	<p>タイトル：大学から就職まで</p> <p>鹿児島県の県内高校進学率は99%と高い一方で、大学進学率は43.5%で全国46位、進学率1位の京都府は67.1%と大きく開きがある。</p> <p>そこで、京都府と鹿児島の大学数に着目したところ、京都府は大学、短期大学を含め44校、鹿児島県は10校であった。このデータから鹿児島県の大学数が少ないことが分かり、大学数が少ないことが、進学率に低さの原因と考え、以下のことを提案する。</p> <p>【提案1】新たな医療福祉系の市立大学を設置する。</p> <p>医療福祉系は学生の人気職業2位であり、また、鹿児島市の老年人口の増加に伴い、医療福祉系に就職する割合も近年増加していることから、今後も医療福祉系の職業需要は高くなると考えられるため、医療福祉系の市立大学を新たに設置を提案する。</p> <p>【提案2】空き家を学生寮として活用する。</p> <p>鹿児島は全国的にも空き家率が高いため、空き家を学生寮にリフォームし、市外や離島の学生も通学しやすい環境づくりを提案する。</p> <p>【提案3】大学と企業の連携</p> <p>大学と医療福祉に関係する企業等と連携し、大学内での定期的な就職の説明会の開催や、大学寮と社員寮を共同で活用し、卒業後も社員寮として引き続き利用できる連携案を提案する。</p> <p>【最後に】 大学設置後の未来（10年後）は高齢者の割合が増えた鹿児島市内で、医療福祉分野で活躍する若者の増加が期待できるものと考ええる。</p>	<p>大学進学率は大きな課題である。</p> <p>また、男女の進学率をみると特に女性の進学率が低い状況である。</p> <p>進学先を県内に設立するという、興味深い意見を聞かせていただいた。実現には、コスト問題や、県内の各大学と協議する必要などが考えられるが、面白い課題として、研究対象とした。</p> <p>その中で、もう一つ取り組まないといけない課題が情報格差である。周りに大学に行ったことのある知人の可否で、情報格差が生まれている。本当に進学したいと思っている家庭に、必要な情報がしっかり伝わるようにする必要がある。</p> <p>空き家の活用も面白い提案で聞かせていただいた。空き家は2種類あり、たまたま空いている空き家と、もう使えない空き家がある。鹿児島は後者の使えない空き家が特に多い。最初に手を打つために、すでにある民間の空き家を活用するの面白いと思っており、市営住宅に活用するなど大いに参考になると考える。</p> <p>県立短大は4年生大学になる議論も出てきているようである。提案の医療系専門人材を育てるためには、おそらく4年生の大学が必要になってくる。県立短期大学の状況を注視しながら、大きな課題として、取り組んでいきたいと思う。</p>	<p>企画財政局</p> <p>産業局</p> <p>建設局</p>	<p>市長回答のとおり</p> <p>大学や企業の連携については、企業や大学、行政の三者（産学官）が連携して検討を進める「かごしまで働きたい若者応援会議」を開催しており、18歳人口をはじめとする若者の市外流出抑制に向け、地元定着を図るための取組の推進について検討を行っている。</p> <p>空き家の活用に関する取組としては、空き家をこれからどう活用していこうか悩まれている所有者に対して、専門的な知識を持つアドバイザーを派遣して相談に応じる、空家活用アドバイザー派遣事業を行っている。</p> <p>なお、空き家を市営住宅に活用することについては、他都市の状況を調査するなど、今後研究していきたい。</p>

「市長と語る会」発言に対する対応方針

別紙（発言要旨）

日時：令和5年2月20日（月）17：15～18：00

場所：東部保健センター講堂

番号	発言者	提案等要旨	市長発言要旨	関係部局	検討結果、今後の方針等
3	武岡中学校	<p>タイトル：電子図書館</p> <p>電子図書館は提供されている本が少ない、インターネット環境が必要などのデメリットがある一方で、いつでも貸出可能であることや、在庫管理問題の解消など多くのメリットがある。</p> <p>また、若者の電子図書館の認知状況を調べるため、武岡中学校2年生91人にアンケートを実施したところ、電子図書館を知っていると答えた人は、わずか6人であったことから、周知広報が課題と考える。</p> <p>テレビCMや新聞で電子図書館の周知を図ったようだが、10代～20代はテレビをみないため、広報効果は低いと考えられる。</p> <p>そこで、10代～20代への周知・利用促進について提言したい。テレビ、新聞以外の方法で宣伝する必要があることから、次の5つの提言を行う。</p> <p>【提言1】 図書館のホームページのトップ画面におすすめの本を表示する。 本を借りたらポイントをつける。ポイント加算で、水族館を無料入館などのサービスを付与する。</p> <p>【提言2】 市内の学校にポスターを配付する。キャッチフレーズは「いつでも どこでも 本の扉（ドア）」。ポスター設置は靴箱や給食室など、生徒のとおりの多い場所にす。また、オリジナルキャラクター作成し、話題性を高める。</p> <p>【提言3】 図書カードを作りやすくする。また、カードを作らずに、マイナンバーカードを利用する。</p> <p>【提言4】 朝読書の時間に活用する。料理や掃除の本が多く、朝読書で活用できるジャンルの本を増やす。</p> <p>【提言5】 図書館のホームページ上の電子図書館に行くことができるサイトを大きくする。</p>	<p>具体的な提案をたくさんいただき、ありがたい。中学生が電子図書館を知らないという情報は驚きで、ありがたいデータをいただいた。</p> <p>いま若い世代の時間は取り合いで、昔はテレビや本での取り合いだったが、今はスマホに時間を取られている。テレビCMだけでは若い世代に届かないという分析は、素晴らしいと感じた。</p> <p>ポイントの提案は、ポイント欲しさに読まずに借りて返す人の、対策が課題と思っている。対策アイデアがあれば、教えていただきたいと思っている。対策が出来れば、提案のあった水族館、科学館の入館料の免除は可能である。また、賛同する企業の方の協力を得ても良い。</p> <p>マイナンバーカードを活用して近いうちにスマホ上で水族館の年間パスなど統合できたらと考えている。</p>	<p>総務局 教育委員会</p>	<p>市長回答のとおり。</p> <p>いただいた提言を参考に、小・中学生向けの読みものや学習・調べ学習に役立つコンテンツを「特集」としてまとめ、それぞれのおすすめのコンテンツを紹介できるように見直しを行った。</p> <p>電子図書館の広報については、小・中学校に毎月配布している「としょかんつうしん」で電子図書館の紹介を行っているが、今後はSNSで紹介するとともに、図書館見学で来館した児童に加えて、引率する教職員にも周知していきたい。</p> <p>また、今後も10代～20代に活用してもらえるような資料を充実させていきたいと考えている。</p> <p>本市では、市民サービス等へICTを積極的に活用し、市民の利便性の向上などを図り、もっと便利で住みよいまちになることを目指しており、ICT活用検討にあたっては、引き続き、関係課と協力し、連携していきたい。</p>